

案件名

No. 27 都留市バイオスタウン構想（案）

募集期間

平成22年1月4日（月）～20日（水） 終了致しました。

担当課

政策形成課 政策担当 0554-43-1111（内線242・243）

意見数

2件（2人）

寄せられたご意見と都留市の考え方

平成22年1月4日（月）～20日（水）までの間、意見の募集を行いました。

寄せられたご意見の概要とこれに対する市の考え方を下記のとおり公表します。

ご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

# 都留市パブリック・コメント制度 意見募集結果

案件名： 「都留市バイオマスタウン構想（案）」

意見提出期間： 平成 22 年 1 月 4 日～20 日

結果公表日： 平成 22 年 1 月 27 日

意見等の提出件数： 提出者 2 名、提出件数 2 件

意見等の受付方法： メール 2 件

	意見等の内容	市の考え方
耕地放棄地	<p>先日私はNHKでデンマークの方が平日は都内で暮らしていますが、休日は小田原で土地を借りて農業をしているという番組を見ました。そこで思い立ったのですが、こうした都内などに住み、農業をしてみたい若しくは農業に興味のある方々に農業が行えるよう都留市の耕地放棄地を借りて頂くなどの誘致をしてみてもはどうでしょうか？また平日の農地の管理等においては管理者を募集する若しくは新たな雇用創出を検討してみてもはどうでしょうか。</p>	<p>ご意見のありました都留市の耕地放棄地を活用した雇用創出については、現在市内のNPOや福祉施設等の農業への新規参入支援を行う等、耕作放棄地の解消と雇用創出に向け取り組んでおり、構想案にも反映するとともに、今後も拡充していきたいと思っています。</p> <p>また、耕作放棄地の貸し出しについては、都留市では農業経営基盤強化促進法に基づき、農業に関心のある方が安心して農地の貸し借り・売買ができるよう支援しています。</p> <p>更に、市民農園の開設者の範囲の拡大や、意欲ある企業等が農業に参入できる機会を拡大し、農地の有効利用と民間の経営ノウハウを活かしたアグリビジネスの振興を図ること「つるアグリビジネス推進特区」を創設する等の取組みを行っています。</p> <p>今後も、このような耕作放棄地の解消に向けた取り組みの拡充やPRを行っていきます。</p>
「都留市バイオマスタウン構想」について	<p>「地域の特徴を活かしたバイオマスタウンという視点で、都留市ならではの取り組みを策定する」</p> <p>なぜなら他の地域の取り組みも同時に行われており、今まで行われているような取り組みでは、都留市のブランディングはできないと考えられます。よって、都留市の地域性、自然環境、人的資源。これらを強みを複合的に構想していくことが重要です。また、自然環境に対する影響をハイテクノロジーに優位な計算上だけで捉え</p>	<p>ご意見のとおり、地域特徴を活かした構想案とし、都留市のブランディングに資する必要があります。</p> <p>構想案策定に際しては、都留市バイオマスタウン推進地域協議会等での協議を踏まえ、都留文科大学等を中心とした多様な主体の参加によるバイオマス利活用の促進、都留市エコモデルハウスや植物工場を活用したバイオマスの利用促進など、都留市の地域性等を反映させたものとしています。</p>

	<p>るのではなく、昔から行われてきた日本の自然との付き合い方（リサイクルシステム）やもったいないという思想をもう一度見つめ直すことがより一層の先進性とブランディングを産むと思われま。</p>	
BDFと廃油を使い分けるディーゼル燃料システム	<p>BDF 生産施設と廃油をそのまま利用する為の濾過施設を設置し、公用車利用と低価格販売を行う。一般市民、商業施設などからの廃油は BDF を学校給食施設、病院などからは濾過済廃油を精製する。冬期の利用に関しては安全な範囲で使用する為に軽油を混合する燃料加温器を製作し、取り付けを行う。またそれに伴って混合した場合の軽油税についての納入窓口を設置する。</p> <p>少なくとも BDF 化するには電気、薬品、廃棄物など環境負荷がかかる。全て一律に BDF 化するのではなく、夏は天ぷら油を自然落下により濾過し、そのまま燃料とする。</p>	<p>廃食用油の有効活用については、都留市バイオマスタウン推進地域協議会等での協議を踏まえて構想案に反映させたものであり、平成 22 年度に完成する給食センターに併設されるマテリアル変換装置の利用を前提としつつ、BDF 化された燃料等の利用方法については今後検討していきたいと思います。</p>
バイオマスタまご	<p>幾つかのステーションに市民の力でごんさを集め、それを直接的に家畜（ニワトリやヤギ）の飼料にする。この地域での特産エコ卵、数年後には特産エコヤギのブランドを作る。また、この事業を耕作放棄地で行い、その解消ともなる。</p> <p>このバイオマスタウン構想から経済的な町おこしまで可能。このような養鶏、養ヤギを含めた有畜有機農業への取り組み希望者もいる。食料ごんさをメタンガスにするには時間も手間もかかり、幾つかの行程を踏むことでロスもでる。また、その後の流通に乗せるには更に経費がかかると思われる。また、市民にはほとんど生産されたメタンガスに触れる要素がなく、理解しにくい。市民の環境意識や取り組み姿勢などには反映しにくいと考えられる。</p>	<p>構想案のとおり、耕作放棄地の有効活用を促進する必要があります。</p> <p>また、民間事業者の自発的な取り組みが促進されるよう、協議会等で今後検討していきたいと思います。</p> <p>メタン発酵については、都留市バイオマスタウン推進地域協議会等での協議を踏まえて構想案に反映させたものです。</p>
有機栽培の奨励	<p>JA などの粃すり工場にクンタン機を設置し、その場でクンタンを製造する。また、クンタンを販売又は、粃を持ち込んだ方にはそのまま持ち帰ることができるようにする。それだけでなく、藁や食料ごんさを有効活用し、有機農向けの肥料を生産し配布又は安価にて販売する。その内、有機認証を受けた生産物は「バイオマス米もしく</p>	<p>民間事業者の自発的な取り組みが促進されるよう、協議会等で今後検討していきたいと思います。</p>

	<p>はエコ米」としてブランディングし、都留市が広報活動を行い首都圏に向けて 600 円/kg 程度で販売する。</p> <p>一般市場に出せるような仕組みが一般農家や市民を巻き込み、大きな意味でバイオマス利用と取り組みの一般化が図れる。</p>	
ウッズタウン都留	<p>「荒れた山林を切ってくれるなら、木を差し上げます」という制度を行い、首都圏の一般市民に広報する。安心な家、セルフビルド、パーマカルチャー、薪ストーブ利用、など、さまざまな関心のある方はこの制度を利用できるようにする。その際には林業家、製材所、運送業者など、都留市内の業者の紹介と資金の助成を行う。また、薪ストーブの導入を補助する制度を作り間伐材と製材木っ端の利用を促す流通の為の助成を行い、燃料となる薪を手に入れやすくする。</p> <p>荒れてしまった山林をバイオマスとして有効に活用し、地元業者の活性化、山林の手入れなどが同時に得られます。</p>	<p>ご意見のとおり、山林をバイオマスとして有効活用することは重要です。</p> <p>構想案の通り、薪ストーブ等の木質バイオマスのエネルギー利用の推進を図り、森林整備を行っていきます。</p>
環境教育について	<p>どこの地域でも農水省の計算式に基づいて計算し、理論上実施し、結果、「都留はバイオマスタウンだ！」と、言っているような気がしませんか？ 実行チームの中はそうかもしれませんが、一般市民、子供たちは、「バイオマス??」なんのことだか解らないままになりかねない状況です。実態を伴ったものにするには、市民を巻き込む施策と環境教育が必要です。環境教育の導入が非常に重要と思います。都留での取り組みは勿論、世界の COP 情勢、生物多様性、気候変動など、様々な切り口で学ぶ機会が必要です。また、子供だけでなく、大人にも必要と思われまます。</p> <p>前述しました内容と合わせて、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 都留市内向け環境教育事業 小学校、中学校、高校、大学、各種学校、一般市民など</li> <li>2 市外向け環境教育事業 近隣市町村など※環境先進のまちを位置づける</li> <li>3 都心と田舎の交流事業 首都圏をマーケットとする</li> </ol> <p>上記 3 事業を実施し、市内の普及啓発、</p>	<p>ご意見のとおり、環境教育の実施は重要であり、都留市バイオマスタウン推進地域協議会等での協議を踏まえて構想案にも反映させています。</p> <p>また、都留文科大学等を中心とした多様な主体の参加を促進すること等によって、環境教育による環境保全・循環型社会形成への関心高揚効果が期待されます。</p> <p>バイオマスの普及啓発や環境教育の具体的な方法については、今後も協議会等において検討していきたいと思ひます。</p>

	市外向けの情報発信、ブランディングと販路の拡大、等を行う必要性を感じます。	
トランジションタウン都留	<p>日本全国的に各地域に環境教育／環境への取り組みに関するソフトを持っていない現状があります。よって、どこの地域も同じような取り組みになっていってしまうと思われます。また、取り組んだ数人のチームが高度な技術を持っていても一般市民に広がるか？は別の話しです。都留にはトランジションタウン都留というソフトを提供する為の団体があります。(トランジションとは？石油依存している社会を依存しないしなやかで強い社会に代えていこうという活動) この団体はイギリス発祥のトランジション活動を行っている団体です。世界ではたった数年で 3000 地域以上が手を挙げ、4000 に迫る勢いです。日本では 8 カ所。役所が市民と共に乗り出しているのは小金井市のみです。環境に配慮したまちづくりの先端をいくなれば、バイオマスタウン構想の名前を「トランジションタウン都留」とすることは環境関係者にとって大きな衝撃を与えると思われます。御検討いただきたく思います。また、必要であれば、会議でのプレゼンテーションを行わせていただきたく思います。よろしくお願いいいたします。</p>	<p>バイオマスタウン構想は、平成 16 年 8 月 30 日に農林水産省が発表した「バイオマスタウン構想の募集について」に基づき策定を行っています。</p> <p>名称の変更は出来ませんので、ご了承ください。</p>